

フォーミュラ・ニッポンデビュー戦で、無事完走を遂げる この経験、データを今後活かすことを誓う

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第1戦 鈴鹿サーキット(5.807km)

2011年よりLe Beausset Motorsportsは、新たに国内トップ カテゴリーの全日本選手権フォーミュラ・ニッポンに挑むこととなった。その開幕戦が5月14日(土)、15日(日)の両日 三重県・鈴鹿サーキットで開催された。擁するドライバーは、昨年まで全日本F3選手権とともに戦っていた嵯峨宏紀。昨年のオートボリスでの最終ラウンドでは、初優勝のみならず連勝を成し遂げ、有終の美を飾ったことによって、チームともども満を持してのステップ アップとなった。シャシーこそワンメイクながら、エンジン選択が許されるカテゴリーにおいて、トヨタRV8Kを搭載しての参戦となる。今年のフォーミュラ・ニッポンは、嵯峨のみならずルーキーが多く姿を見せた一方で、日本を代表する若き精鋭たちも引き続き肩を並べている。そんな厳しい戦いの中で一戦ごと着実に、上位進出を狙うこととなる。まずはチーム、ドライバーともに得意とする、鈴鹿サーキットから新しい挑戦を開始することとなった。



予選

5月14日(土) 天候/コース状況: 晴れ/ドライ

本来、開幕戦は4月16~17日に行われるはずだったが、東日本大震災の影響によってレースが延期に。そのため、約1か月遅れでスタートを切ることとなった。

やはり延期となっていた合同テストは、レースウィークの11日(水)、12日(木)に行われたものの、この両日はいずれもあいにくの雨模様となってしまふ。しかし、13日(金)以降は晴れとの天気予報が出ていたこともあり、急きょ12日2回目のセッションが13日に延期。ドライ、ウェット両方のテストが可能となったことで、貴重なデータを積み上げることもできた。

ところが、予選を前にしてセッティングのみならず、ドライビングにも最終確認の機会でもある土曜の午前中に行われたフリー走行において、シケインでスピン。エンジンの再始動ならず、わずか2周走っただけでセッションを終えることとなる。

続いて行われた予選はノックアウト方式。上位陣のみ次のセッションに進めるシステムの中、最初のQ1で実質2回のアタックを敢行する。最初のアタックで1分44秒094をマークして、このレースウィークの自己ベストとした後、いったんピットに戻ってセッティングを再調整。

2回目のアタックで、43秒943にまで短縮を果たすこととなる。惜しくもQ2進出はならなかったものの、一步一步着実に進化を遂げていることを、ここで明らかにした。



決勝

5月15日(日) 天候/コース状況: 決勝/ドライ

決勝レースの行われる日曜は、引き続き好天に恵まれたばかりか、5月中旬とは思えぬほど気温は高まり、もはや初夏のようでさえあった。早朝に行われたフリー走行では、周回を重ねる「ロング」を実施。決勝を想定したセッティング、そしてドライビングが試された。最大の収穫は、12周連続の走行においても安定して走れることが確認できたことだ。

時間の経過とともに、スタンドには多くの観客が詰めかけようになり、最終的に20,500人がサーキットを覆うことになった。13時ちょうどに決勝レースの為にウォームアップ走行で最終チェックを行った後、スタッフはマシンをスターティンググリッドに送り出した。

今回は8列目、16番手からのスタート。昨年まで戦っていたF3ではポールポジションを獲得するなど、常に上位グリッドに並んでいただけに、前に多くのマシンが並ぶ光景に違和感も覚えはするが、それはルーキーに対する洗礼でもある。今回のレース順位のみならず、ここから回を重ねること、どこまで上がっていくのか大いに注目されることだ。

好スタートを切って前の2台にも並びかけたものの、1コーナーにはポジションキープで進入。続く2コーナーでポールシッターの山本尚貴(Team無限)を含む接触があって混乱が生じたものの、冷静に対処できたことにより、12番手にまでポジションを上げる。

それからしばらくは、背後につける石浦宏明(Team KYGNUS SUNOCO)とのバトルを展開、キャリアに長けるドライバーを相手に、臆することなく周回をつづけた。また、予想以上に義務づけられたタイヤ交換を早めに行うチームが多く、そのつど順位は上がっていく。当初より、ピットストップは終盤に行い、長くコースに留まることを予定していたこともあり、16周目には5番手にまで浮上することとなった。

そして、ピットストップは21周目に。タイヤ交換と給油を終えマシンをコースに送り出す。その間に順位を13番手に。その2周後、国本雄資(Project μ /cerumo・INGING)にタイヤ交換の際、トラブルが発生。これにより、12番手に順位を上げることとなった。

その後も安定した走り、射程圏内に納めるまでにはいたらなかったとはいえ、前走車との差も詰め続け、38周を走り抜くことに成功。12位で無事フィニッシュすることとなった。

シリーズ第2戦は、6月4~5日に大分県・オートボリスで開催される。開幕戦でしっかり完走を果たして蓄積した経験やデータを基に、F3で優勝経験のある思い出深いサーキットで、より内容のいいレースが期待される。



Driver

嵯峨宏紀

Koki SAGA

COMMENT

初戦ということもあり、今回はゴールすることを第一目標に攻めて走っていたので、まずは完走できて良かったです。全体的にテストが他のドライバーよりできなかったことを言えば、ベストな結果だと思います。データも獲れたので、今後につながるレースができました。ただ、ガソリン多めの序盤がベストなフィーリングで、終盤軽くなった時にペースを維持するのが難しかったのでその課題が残りました。ここで経験もつめましたし、データの蓄積もでき、次は昨年F3で優勝しているサーキットですのでいい方向にはあります！

チーム監督

坪松唯夫

Tadao TSUBOMATSU

COMMENT

震災の影響から開幕戦までに与えられた走行時間は非常に少なく、新参チームとルーキードライバーにとって厳しい戦いになることは予想された。雨天での走り始めにはアクシデントに見舞われたが限られた時間の中でプログラムを消化でき、少しずつ上位陣とのタイム差もなくなってきた。予選の順位が確定した上で、嵯峨には小さなミスは気にせず、大きなミスに注意するよう伝えて決勝に送り出した。今回完走出来たことは、経験を積むという意味で大きく、ここからがスタートだと思う。次戦も気を緩めず戦いたい。

第1戦 決勝

順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
1	36	A・ロッセラー	PETRONAS TEAM TOM'S	6
2	32	小暮卓史	NAKAJIMA RACING	2
3	37	中嶋一貴	PETRONAS TEAM TOM'S	14
4	40	伊沢拓也	DOCOMO TEAM DANDELION	5
5	7	大嶋和也	Team LeMans	9
6	1	J・P・オリベイ	TEAM IMPUL	4
7	41	塚越広大	DOCOMO TEAM DANDELION	3
8	8	石浦宏明	Team LeMans	13
9	2	平手晃平	TEAM IMPUL	7
10	18	A・インペラトリ	SGC by KCMG	12
11	31	中嶋大祐	NKAJIMA RACING	11
12	62	嵯峨宏紀	Le Beausset Motorsports	16
13	33	国本雄資	Project μ /cerumo・INGING	8

TOYOTA

DENSO

NPR

TPR

AISIN AW

OTICS

豊田自動織機

AISIN

富士電機

Arx

NSK

大豊工業

TAMACHI

MARUYASU

カエスター

TRD

icode

Tee-up

Castrol

PERFORMANCE FRICTION BRAKES

OBYSSEY

TAKATA

UPSTART

BILLION

EIHO chemicals NICHIMOLY

TOYOKO

IDC SYSTEM AG

wax graphics